



Title	創刊の辞
Author(s)	所, 伸一
Citation	北海道大学教職課程年報, 1, 1-1
Issue Date	2011-03-10
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/45340">http://hdl.handle.net/2115/45340</a>
Type	bulletin (other)
File Information	kyoushoku soukan.pdf



[Instructions for use](#)

## 創刊の辞

### 確かな知識を備え、変動期を生きる智慧を伝える教師を求めて

教務委員会教職課程専門委員会委員長・大学院教育学研究院長 所 伸一

このたび『北海道大学教職課程年報』を発刊する運びとなった。このことを心から喜び、ひとことご挨拶を申し上げたい。

わが北海道大学における教員養成は、さかのぼれば、本学が札幌農学校として創立された当初から行われていることを誇ることができるのであるが、学校教員の意図的な養成教育としては、第2次大戦後の新制大学再編以降である。それは、日本が全体としては、狭い師範教育ふうの戦前の苦い経験の反省にたち、いわゆる開放制の教員養成を開始し、高等教育において何らかの学問の洗礼を受け、かつ実証的な教育方法学や心理学を学んだ者に学校教師の職をゆだねることとした時代のことであり、さらに、本学に教育学部が設置された（1949年）ところからと言いかえることが出来る。こうした転換をともにしながら本学は中等教育界に少なくない人材を送り出してきたと自負する。

時はめぐり、社会は変化し、学校教員の仕事に求められるものは増え、多様になってきた。大学の教員養成も、教員免許制度の大小の改正と自己改革を経て拡充がはかられてきた。このなかで北海道大学は、専門職として中等教育機関の教員を送り出すことをミッションの一つとして掲げ続けている。多彩な専門分野の、かつ認められた水準の学問をになう機関としての本学が持つ、科学の一端と、子ども・青年への接し方・教え方の両方を修めた人材を輩出する機能に対する期待は、現在はかつてなく高まっているとさえ言うべきであろう。

それらの期待に応える新たな仕組みを国家的な養成制度として確定するプロセスのほうは、現在の特殊・日本的な政治的不安定にもかかわらず、担当の部門において各界の協力のもと、相対的独自に進められている。養成課程の長期化などをふくめ「強化」の方向はゆるがないと思われる。

私たち大学側としては、その間にも自己改革と「充電」とを並行させなければならない局面にあるということもできる。そこで、かかる状況における私たち自身の営みの到達点と次の局面への備えの確認として、本学の教員養成課程の実践の記録や理論準備などのうち、大学内外に発信すべきもの、共有すべきものを、このような「年報」発行という形で公開しようという運びになったものである。

これを企画された教育学研究院の諸先生、支えて下さった本学教務委員会教職課程専門委員の諸先生、ほか多数の関係諸方面にあつく御礼を申し上げます。ひろく、これを読まれた皆様からのお声が寄せられることを期待していることを申し添えて、御挨拶に代えさせて戴きたい。